



月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.3.30 No. 3969

94新賃金 低額回答の弾劾!

JR各社の94新賃金

JR東日本	12, 122円	(3・77%)
JR東海	12, 585円	(3・77%)
JR西日本	12, 184円	(3・77%)
JR四国	9, 560円	(3・25%)
JR九州	9, 759円	(3・16%)
JR貨物	9, 328円	(2・98%)
JR北海道	—	—

動労総連合は、組合員の切実な要求とあまりにもかげ離れた、この超低額回答に対し、強く抗議するとともに、再考を要求して交渉を打ち切った。

動労千葉は、三月二十九日、新小岩・佐倉拠点で第二波ストを実施し、全支部からの動員者も含めて超低額回答を弾劾し、怒りを結集して闘うことを確認した。

回答に抗議 再考を要求

JR貨物会社は、三月二十九日、団体交渉で、九四新賃金について

定昇 五、九一円
(一、八九%)

ベ・ア 三、四一七円
(一、〇九%)

という超低額回答を行なってきた。

新小岩 拠点

低額回答は労働者への責任転嫁だ!

三月二十九日、一三時より、新小岩支部は、機関区において、津田沼、幕張、京葉、総武、木更津、館山、勝浦、いすみの各支部組合員が結集する中、地上勤務者の時限ストに突入すると同時に春季第二波スト総決起集会を開催した。

冒頭、参加者全員で三月二十六日に亡くなった山村君の冥福を祈って一分間の黙祷を行い、哀悼の意を表した。

次に、柴崎支部長より、春闘の回答が超低額(二・九八%)で他社との格差がより大きくなったことを弾劾するあいさつが行なわれた。

田中本部長からは、貨物会社の超低額回答は、会社の責任である業務低迷を労働者に押しつけるものであることや団体交渉における貨物会社の不誠実な対応等々が報告された。

スト突入者を代表して車両技術分科の加瀬組合員より「超低額回答は絶対許すことはできない」という決意表明が行なわれ、これを受けて乗務員分科、支部青年部、各支部代表より決意表明が行なわれ、シュプレヒコール、団結ガンバロー三唱で集会を終了し、春季第二波ストを貫徹した。(新小岩支部通信員発)



佐倉 拠点

低額回答打破、基地統廃合阻止へ80名が結集

「二・九八%、九三二八円」、集会冒頭に報告されたJR貨物の超低額回答に結集した組合員の怒りがこみあげる中で、三・二九春季第二波スト突入集会は、佐倉機関区に八〇名の組合員が結集する中で行なわれた。

一三時よりストに突入した二名の地上勤務者を中心に、佐倉、千葉転、銚子、成田支部組合員は、この超低額回答を断じて許さず、低額回答打破、日貨労の裏切り受結弾劾、基地統廃合阻止に向けた闘いの決意を打ち固め、スト総決起集会をかちとり、第二波ストを断固として貫徹した。(佐倉支部通信員発)



写真上 佐倉機関区で行なわれた春季第二波スト総決起集会。低額回答に結集した組合員の怒りがふきだした。

写真右 新小岩機支部は、山村君の急逝を乗り越え、断固としてストライキを貫徹し、低額・格差回答に断固として怒りを叩きつけた。